

令和3年度 清原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- (1) 基本目標
①活力ある生徒 ②よく考え、創造する生徒 ③豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
- (2) 具体目標（具体的な生徒像な）
①頑張る人 ②考える人 ③思いやりのある人

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

豊かな心と健やかな身体をもち、社会の変化に主体的に関われる能力や創造力を培い、自らの向上とより良い社会の発展を目指し、国際社会に生きる人間性豊かでたくましく生きる生徒を育成する。

3 学校経営の方針

- (1) 教職員の和を基調とし、「教師が変われば、生徒も変わる」を信条に、師弟同行の実践を踏まえ、「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導に徹する。
- (2) 知・徳・体の調和を図り、各教科等において基礎・基本、体験的な学習や課題学習、個に応じた指導を重視し、自ら学ぶ態度を育成する。
- (3) 道德教育・人権教育・国際理解教育の充実と各教科、総合的な学習の時間、特別活動等の特質に応じた指導の深化を図り、生徒の活力を醸成する。
- (4) 一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、進路に関する情報を収集・活用し自らの生き方を探求するとともに、進路の選択・決定ができるよう、学校、家庭及び地域社会との連携を密にしながら、指導・支援に努める。
- (5) 緑に恵まれた環境を活かし、思いやりや助け合う心を育て、特色ある学校づくりに努める。
- (6) 教職員の働き方の推進に向けて、生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減のために、日課の工夫や IT を活用した業務の効率化を図る。

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

本校教育目標を達成するため、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階と特性等を十分考慮し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成が図れるよう各教科等の指導内容、指導形態、時数等の相互の関連を考慮し、教育課程を編成する。その際、学力の基礎・基本の定着、心の教育、健康安全の確保、地域とともにある学校づくりに留意する。

5 今年度の重点目標 ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学校運営 】

思いやりをもち、認め合い、助け合いながら良好な人間関係を築ける生徒の育成

【 学習指導 】

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」の育成

学習に1人1台端末などを活用しながら自主的・主体的に取り組む、他者との対話を通して、自らの学びを深めることができる生徒の育成

【 生徒指導 】

基本的生活習慣の定着

○ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進・ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止

【 健康（体力・保健・食育・安全）】

○健康教育及び安全教育を推進し、心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

【勤務時間を意識した働き方の推進】

ICTを活用して業務の効率化を図るとともに、日課を工夫して生徒と向き合う時間の確保

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 学習の3つの決まり ・チャイム着席 ・きちんと起立、礼 ・指名されたらハイ の徹底を図る。 ② 4月に配付した「きよはら学習ガイド」を通年で活用し、学習態度や学習の進め方を指導する。 ③ 授業中は、教師の指示や説明を集中して聞くようにさせるとともに、落ち着いた学習環境作りに努める。 ④ グループで話し合う場面や発表する場面を意図的・計画的に設定し、主体的に学習に取り組むようにさせる。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 92.3%（昨年度より 0.4 ポイント↓）で数値指標を 2.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、学習の3つの決まり「チャイム着席、きちんと起立、礼、指名されたらハイ」の徹底を図る。話の聞き方、発表の仕方、ノートを取り方など基本的な学習態度、学習技能の育成を図る。基本的な学習習慣への指導や、主体的な学習活動場面の確保、自主学習ノート等を通して、学習意欲を高めていく。ICTを駆使して課題を解決し、成果を発表する機会を計画的に設定してICT活用能力を高める。
	○A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 道徳科の授業で思いやりについて考えさせ、日常生活において思いやりの心を態度で示すことができるようにさせる。 ② <u>全教職員は、日常的に生徒の言動に気を配り、ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進をし、ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止を徹底する。</u> ③ 給食活動や清掃活動などの当番活動や係活動では、互いの役割を尊重する意識を高める。 ④ 望ましい言動を日常的に称賛できるよう、生徒の活動をしっかりと観察する。 ⑤ 学校行事後は、統一した振り返りシートを活用し、思いやりの心の大切さや意義に気付くとともに、お互いに認め合えるようにする。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 92.8%（昨年度より 5.3 ポイント↑）で数値指標を 7.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。特別の教科道徳の授業で思いやりの心について考え、給食活動や清掃活動などで、道徳的実践力をはぐくむとともに、教職員が望ましい言動の模範を示し、生徒の言動について日常的に気を配る。また、学校生活の中での、生徒の思いやりあふれる行動を称賛できるよう、生徒の活動をしっかりと観察する。 行事等の事後指導では、統一した振り返りシートを活用し、思いやりの心の大切さや意義に気付くようにする。 保護者や地域住民にも、学校ホームページ等を活用し、思いやりのある行動を広報する。

目 指 す 生 徒 の 姿	A3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 生徒の委員会活動での自主的な活動を掲示物等で知らせ、自分の役割を果たすことやルールを守ることの大切さを理解させ、基本的な生活習慣の習得を図る。 ② 全教職員の共通理解・共通認識のもと、決まりやマナーを守らせる指導を行い、できない生徒の言動を見逃さない指導を適切に行うことにより、規範意識を高めていく。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 93.8%（昨年度より 5.1 ポイント↑）で数値指標を 8.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 次年度は拡充項目とする。生徒会活動を活性化し、生徒が主体となって、決まりやマナーを守って生活する啓発活動を行う。教職員の肯定回答率が市の平均より 2.4 ポイント下回っていることから、教職員の共通理解を深め、自らの行動も律していく。
	A4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① あいさつの大切さはもとより、あいさつの声が飛び交う明るい学校づくりの一端を担うという意識をもたせ、朝の会や帰りの会時、授業開始時・終了時、給食時のあいさつを習慣化させる。 ② 教職員が自ら率先してあいさつを行う。 ③ 生徒会を中心としたあいさつ運動を、週 1 回実施する。 ④ 校内での来客や、校外の交通指導等でお世話になる P T A や地域の方々にもあいさつができるよう促す。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 97.4%（昨年度より 4.8 ポイント↑）で数値指標を 7.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、①の取組を中心に、生徒へのあいさつと会釈の励行を重点的に推進する。あいさつの大切さはもとより、あいさつの声が飛び交う明るい学校づくりの一端として担うよう意識を高める。また、生徒会を中心に、生徒を主体としたあいさつ運動を工夫する。
	A5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 学級活動では、様々な職業の社会的役割や意義を理解させ、自己の生き方を考える指導を取り入れ、学習の意義や価値を考えさせたり、将来設計を行ったりできるよう指導する。 ② 将来の目標に近づくための進路実現を目指して、計画的なテスト前学習に取り組ませ、テスト後の結果の振り返りに、粘り強く取り組ませる。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 88.2%（昨年度より 0.6 ポイント↑）で数値指標を 3.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 次年度は拡充項目とする。学級活動や学校行事を通して自己の生き方を考える内容を取り入れ、将来設計に向けた計画的な指導をしていく。また、学習面では、「今日の目標」を確実に理解させ、「振り返り」から生徒の学びに向かう態度を適切に見取ること、課題に粘り強く取り組むことができる生徒の育成を図る。さらに、自主学習やテスト勉強に計画的に取り組めるよう指導する。

目指す生徒の姿	○A6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 保健だよりや給食だよりを定期的に発行し、生徒へ健康や安全の重要性について周知する。 ② 朝食や給食を残さず食べること、歯磨きに関する強化週間を設け、健康や食生活に対する意識を高める。 ③ 安全教育の充実を図るとともに、実技や実験、実習作業を伴う授業においては、生徒自身の危機予測や危機回避などの資質能力を高めるよう、安全に配慮する指導を徹底する。 ④ 一年中換気を行いつつ、エアコン使用の適切な運営や熱中症計の設置、冬季には加湿器の設置を行い、熱中症や感染症の予防に努める。 ⑤ 避難訓練を年2回行い、注意すべき点や安全に関する講話をすることで、災害安全や防災に対する関心を高めさせる。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 94.7%（昨年度より 0.3 ポイント↓）で数値指標を 4.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、保健だより・給食だよりを定期的に発行し、生徒・保護者へ食育や健康の重要性について啓発したり、朝食の重要性に関する強化週間を設けたりして望ましい食習慣の育成を図る。 新型コロナウイルス感染症予防のための、マスク着用・手洗い・換気の徹底も継続していく。 教員の働きかけのみならず、より主体的に健康や安全に気を付けられるように促す。そのために、生徒が主体となって専門委員会等で対策を考え、呼びかけを行うなどの啓発活動を行う。 B
	A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 学級活動や道徳で、自己を見つめ、自分が社会のためにできることは何か考えさせ、未来を担う社会人を目指して、夢や目標をもつことの大切さを理解させる。 ② 地域の貢献や社会奉仕の意義を理解させ、ボランティア活動や地域行事に進んで参加できる態度を育てる。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 88.2%（昨年度より 0.6 ポイント↑）で数値指標を 3.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 次年度は拡充項目とする。学級活動や生徒会活動で自分たちが社会のためにできることは何かを考えさせる機会を多くし、社会に貢献することの大切さを理解させる。また、「地域未来会議」を拡大・充実させる。さらに、部活動ごとによる地域の活動やボランティア活動に進んで参加させる。 A

目 指 す 生 徒 の 姿	A8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上	① 英語の授業でALTやT2との活動の際、small talk を使って英語でコミュニケーションをとる場を計画的に設定する。 ② 英語の授業で、教員が発する英語の指示に生徒が英語で反応する学習の場面を多く設定する。 ③ 「ALTとコミュニケーション週間」を年に3回設定し、英語を積極的に使う機会を設ける。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 87.2%（昨年度より 1.9 ポイント↑）で数値指標を 7.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。英語を使用した会話活動や校内の掲示は、生徒のコミュニケーション能力の育成、また英語の使用感につながるため、来年度も実施していく。また、ALTとは授業中だけでなく、休み時間や清掃活動中など、普段の生活の中でコミュニケーションを取れるよう生徒とALTが接する場面を多く設ける。
	A9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上	① 各教科で地域の良さや学校の良さに触れる題材や学習場面を設定し、郷土に目を向けさせることで、宇都宮の良さに気付くようさせる。 ② 「総合的な学習の時間」での「宇都宮学」において、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。 ③ 学校給食では、郷土食や宮っ子ランチを教材にして、宇都宮の歴史や文化について考えさせ、郷土への愛情と誇りをもたせる。 ④ 「宇都宮学」の学習の様子を「学年だより」で発信したり、保護者会等で生徒が発表したりする場を設定する。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 83.9%（昨年度より 2.7 ポイント↑）で数値指標を 3.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き「総合的な学習の時間」での「宇都宮学」において、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。今年度、発表会の様子をオープンスクールで保護者に見せることができたので、来年度もそのような場を設けたい。また、学校給食では、郷土食や宮っ子ランチを教材にして、宇都宮の食の歴史や文化について紹介することで、郷土への愛情と誇りをもたせたい。
	A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① ICT教育チームを中心に、校内のICT教育の体制を整え、教員のICT活用指導能力を高めていく。 ② 教員は、生徒がタブレットや図書室を活用した授業の改善を行う。 ③ 授業参観や一人一授業の公開授業では、ICTや図書等を活用した授業を行う。 ④ 年度当初、タブレットの正しい活用の仕方を生徒に指導する。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 84.5%（昨年度より 17.4 ポイント↑）で数値指標を 0.5 ポイント下回った。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、拡充項目とする。 GIGAスクール推進チームを中心に研修を重ね、教員のICT活用指導能力を高めるとともに、生徒の情報活用能力の向上を図る。特に、オンライン学習を全員ができるよう、環境やスキルを高める。また、AIDリルを授業や家庭学習で活用し、学力向上を目指す。 さらに、学校図書館の活用も計画的に実施する。

す 生 徒 の 姿	A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 9月の敬老の日に合わせて、道德の「社会参画、公共の精神」の内容項目を扱い、各家庭の祖父母などの高齢者に対して感謝やいたわる心をもたせ、高齢者をいたわる気持ちを表すことができるようにさせる。 ② 清原老人連合会体育大会では、生徒ボランティアを積極的に活動させる。 ③ 地域協議会との活動や、学習ボランティアなど地域の高齢者との交流を通して、感謝の心を育むようにする。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 92.8%（昨年度より 5.3 ポイント↑）で数値指標を 7.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、特別の教科道德の授業で、思いやりの心をもって、誰に対しても優しく接することの大切さについて考えさせ、地域に住む高齢者の方々と接する際に、率先していたわる気持ち表すことができるよう指導する。また、ボランティア活動や高齢者との交流の機会がもてない場合があるので、交流の仕方を見直していく。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 「持続可能な社会」を目指すための目標(SDGs)についての掲示物やスライドを作成し、生徒に啓発する。 ② 教室にプラスチックごみ箱、リサイクルボックスを設置し、持続可能な社会の実現に向けた行動に関心を高め、実行につなげる。 ③ 緑化委員会による学校敷地内の花壇の整備や松のこも巻き活動を通して、校内の緑化活動を推進する。 ④ 避難訓練を年2回行い、事後指導では、生徒全員の状況を丁寧に把握し、災害安全や防災に対する関心を高めさせる。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 84.1%（昨年度より 3.7 ポイント↑）で数値指標を 5.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 引き続き、「持続可能な社会の構築」について、教職員や生徒の意識を高める。各教科において「持続可能な社会」についての教材を扱う際に、本校の取組と関連付けることで、生徒にも身近な課題として意識させる。また、防災についても触れる機会を増やしていく。 来年度も生徒会活動において、緑化・給食・美化・防災などの各委員会の活動で、啓発を継続する。特に給食委員会による昼食時のパワーポイントを活用した放送が有効であったので、継続する
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	① 教育相談・特別支援教育部会において、生徒の状況についての情報を継続的に共有していくとともに、関係する学年・教職員との連携を図る。 ② 特別な支援を必要とする生徒について、学校生活で配慮が必要な生徒に関して、校内でケース会議を開催し、チームで支援の方法を考える。 ③ かがやきルームや校内適応教室の適正な運用を図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 93.9%（昨年度より 2.2 ポイント↓）で数値指標を 3.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、特別支援教育コーディネーターを中心に、特別な支援を必要とする生徒への対応方法に関する校内研修を行っていく。また、かがやきルームや校内適応支援教室の活用の仕方について、共通理解を図るとともに、教育相談・特別支援教育部会を中心に、情報の共有と、必要に応じて外部機関との連携を図る。

目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 95%	① 学級担任は、いじめを絶対に許さない毅然とした姿勢で学級経営を行うとともに、「個性」について考え、人との違いをより深く考えさせる場を設定する。 ○② <u>全教職員は、日常的に生徒の言動に気を配り、ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進をし、ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止を徹底する。</u> ③ いじめアンケートや観察から、いじめの早期発見・早期解決を徹底し、未然防止に努める。 ④ 保護者会や学校・学年・生徒指導だより・HPなどで、いじめの未然防止について取り上げ、いじめ根絶に向けた本校の取組を発信する。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 95.4%（昨年度より 1.0 ポイント↓）で数値指標を 0.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 いじめアンケートや QU 検査の結果を活用し、定期教育相談等を活用し、いじめを見逃さず認知できるようにする。また、いじめが許されない行為であることを徹底して指導し、生徒主体のいじめ根絶集会を行い、いじめ根絶につなげていく。いじめ根絶に向けた本校の取組を、ホームページ等を活用し、積極的に発信する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の生徒を大切にし、生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 100%	① 学級担任は、係活動や当番活動、授業中の発表などで生徒一人一人の取組の良さを見出し称賛することで、生徒にとって居がいのある学校生活となるような学級経営を行う。 ② 教職員同士で生徒の望ましい言動を伝えあい、生徒の自己肯定感を高め、学校全体として生徒を見守り、見届ける指導をする。 ③ 保護者へ連絡をする機会に、生徒の良い点を意図的に伝えるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%（昨年度と同じ）で数値指標と同じ。 【次年度の方針】 取組を継続するとともに、教職員間で生徒の良い面を伝えあい共有し、生徒を称賛することで、生徒の自己肯定感を高め、不登校を生まない学級経営を目指す。 教育相談・特別支援教育部会を中心に、配慮生徒への情報を共有し、早期対応ができるよう、教職員が連携していく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	① 日本語指導に係る母語指導者や日本語ボランティアとの連携を図り、生徒の実態把握と困り感を把握する。 ② 外国人生徒の学習・生活体験等について国際理解担当教員が中心となって、学級担任や学年主任と連携し、共通理解を図る。 ③ 外国人生徒のみならず、保護者会や懇談等で通訳が必要な保護者の実態把握や対応を計画的に行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 93.9%（昨年度より 2.2 ポイント↓）で数値指標を 3.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 取組を継続し、外国人生徒等の実態に応じてケース会議などを開くことにより適切な支援が行えるように対応していく。

目 指 す 学 校 の 姿	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自発的な活動を伸ばすようにし、生徒が前面に出るよう、見守り助ける指導にあたる。 ② 学年主任は、学年の生徒たちが生き生きと活躍できる明るい雰囲気となるよう、各学年の諸活動を推進し、自分の学校に誇りをもてるようにする。 ③ 学校生活全般において教職員が意図的・計画的に生徒の頑張りや良さを認め、励まし、称賛する教育の推進を心がけ、生徒が自己有用感を実感できるようにする。 ④ 教職員一人一人が自信をもって自分の業務に取り組み、生徒と関わることで、学校全体が明るい雰囲気になるように努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 88.7%（昨年度より 2.0 ポイント↑）で数値指標を 1.3 ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度も引き続き拡充項目とする。 生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自発的な活動を伸ばしていく。生徒の頑張りを生かして、認め励ます指導を推進することから、善い行いや努力をみとる表彰を追加する。 学校全体がさらに明るい雰囲気となる諸活動を推進し、生徒が自分の学校に誇りをもてるようにする。 行事を単に中止するのではなく、そのような中でも生徒たちが生き生きと活躍できるような方法を教職員が考え、何らかの方法で実施できるように検討していく。 教職員は、業務を一人で抱え込むことなく、協働することで活性化を図る。
	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 主体的・対話的で深い学びに向けた授業の実現を目指す。「今日のめあて」を適切に提示して学習に見通しをもたせ、「振り返り」の時間の確保を徹底することで、学習の達成感をもたせ、分かる授業につなげる。 ② ペアやグループ学習を取り入れた対話的な活動や ICT の活用や教材・教具を工夫するなど視覚的な活動を通して、個に応じたきめ細かな指導を図る。 ③ テスト前に補習形式の質問教室を充実させ、個別の指導にあたる。 ④ 指導と評価の一体化を図りながら生徒の学習状況を把握することで、「努力を要する」生徒に対して適切な支援を行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 92.8%（昨年度より 1.5 ポイント↑）で数値指標を 2.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き「今日のめあて」を適切に提示して学習に見通しをもたせ、「振り返り」の時間の確保を徹底することで、学習の達成感をもたせ、分かる授業につなげたい。また、「振り返り」によりそれぞれの生徒の理解度を把握することで、それぞれの生徒に応じたきめ細やかな指導を行う。さらに、ICT の活用や教材・教具を工夫するなど視覚的な活動を通して、分かりやすい授業を展開したい。

目 指 す 学 校 の 姿	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	① 学校行事や諸活動では、目的や方法の共通理解を丁寧に行うことで、教職員全員が協力して業務に取り組む。 ② 担当者による報告・連絡・相談を徹底し、必要に応じて全体への周知を図る。また、諸活動の実施後は取組の検証を行い、改善策を次に生かすことで、チームとしての質の向上を図る。 ③ 生徒理解や配慮を要する生徒の適切な対応には、SCMを中心にSC、MS、学年や学級担任との連携を密にし、全職員で情報共有や協力した取組を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.9%（昨年度より 5.7 ポイント↑）で数値指標を 5.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 生徒理解や配慮を要する生徒の対応において、担任が一人で抱え込むことのないよう、さらにチームで取り組んでいく。また、教職員の共通理解のもと行事等に取り組むとともに、互いに進捗状況を確認する。
	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	① 出退勤記録の入力や適切なリフレッシュデーの設定により、勤務時間の意識化を図る。 ② 諸会議録や連絡事項、学年・教科間で共有できる電子データを活用して業務の効率化を行う。 ③ 校務運営委員会や学年主任会、職員会議を活用して、学校行事の円滑な運営や計画的な学年経営を行う。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 65.3%（昨年度より 21.0 ポイント↓）で数値指標を 24.7 ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度は拡充項目とする。特に、学校業務のペーパーレス化を推進する。 引き続き、勤務超過時間が60時間を超える教職員に業務の効率化を呼びかけるとともに、タイムマネジメントの必要性を推奨する。また、諸会議等の計画的・能率的運営をさらに推進する。
	○A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	① 乗り入れ授業、小中情報交換会、児童生徒指導強化連絡会、あいさつ運動、お弁当の日、小学6年生の中学校訪問など、小中の連携を図り、取組の充実を図る。 ② 地域学校園教職員研修の授業研究を行い、その指導法や成果等を共有し教科指導力向上を目指し、次年度に向けた課題の洗い出しをする。 ③ 学校ホームページや学校だより、「地域協議会だより」や「清原地域学校園だより」において、小中一貫教育や地域学校園の活動の様子を保護者や地域に周知する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.9%（昨年度より 5.1 ポイント↑）で数値指標を 5.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、小中連携の取組を継続していく。授業料向上プロジェクト3年間の成果と課題を踏まえたセカンドステージにおける目標を推進していくとともに、今後も、保護者や地域に向けたPR活動を行う。

目 指 す 学 校 の 姿	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 95%以上	① 地域コーディネーターと連携し図書館や学習活動等のボランティアなど、地域人材を活用した諸活動を推進する。 ② 各学年のクリーン活動や美化委員によるとびやま城址跡公園ボランティア清掃、学校敷地内の緑化環境整備をPTAや地域と協力して行い、運営の充実を図る。 ③ 地域の教育力を生かした特色ある活動を学校だよりやHPなどで、積極的に情報発信する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 98.0%（昨年度と同じ）で数値指標を 3.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 梅の実の収穫や松の木のこも巻き、クリーン活動など地域学校協働活動推進員と連携した学校教育の充実を図る。 学校だよりやHPで発信するとともに、校内掲示板に掲示する
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 95%以上	① 清原中学校地域協議会の協力を得て、学習ボランティアや校内環境整備活動等を展開しながら学校運営の充実を図る。 ② 青色防犯パトロールや下校指導をPTAや地域協議会と連携して実施し、生徒の安全確保の協力を得る。 ③ 「地域未来会議」を12月に実施し、清原地域の未来について生徒と地域、家庭と協議する場を通して、郷土を愛し地域の未来を創造しようとする生徒の育成に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 98.0%（昨年度と同じ）で数値指標を 3.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 地域連携教員が主務者となり、地域や家庭との連携を充実させる。特に、「地域未来会議」では、地域学校協働活動推進員と連携し、さらなる学校教育の充実を図る。 学校だよりやHPを用いて、地域や保護者に積極的に発信する。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 100%	① 毎月1回の安全点検を丁寧に行い、危険箇所の早期発見を心がけ、早期対応を図る。 ② 台風や地震、落雷、降雪などの災害発生前後に校舎内外の巡視を行い、危険回避につとめるとともに、危険箇所の早期発見・早期対応を図る。 ③ 来校者をチェックし、名札の着用を求めるとともに、校門を登下校時以外は閉めておく。 ④ 感染症予防のために、来校者が校内に入る場合はマスク着用と手指消毒を求める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 98.0%（昨年度より 2.0 ポイント↓）で数値指標を 2 ポイント下回った。 【次年度の方針】 引き続き、防犯カメラ等で来校者に対するチェックを行うとともに、登下校時以外の校門の閉鎖を徹底する。 感染症予防のため、来校者が校内に入る場合はマスク着用・手指消毒をお願いしていく。 安全点検を丁寧に行い、危険箇所の早期発見・早期対応を継続する。

	A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	① 生徒が授業や家庭持ち帰りにおいて、タブレットを快適に使用できるよう適切に管理・運営する。また、教職員に周知していくことで、授業での活用率を上げていく。 ② 職員室の棚に書画カメラやＤＶＤプレーヤー、ＣＤラジカセ等を置き、管理簿を用いて紛失を防ぎ、定期的にメンテナンスをするなど、保管・整備を工夫する。 ③ 必要図書アンケートを教職員や生徒に行って希望図書を購入し、学習に活用しやすいように、テーマ別にコンテナに分けておく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 98.0%（昨年度より 11.7 ポイント↑）で数値指標を 8.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、生徒がＩＣＴ機器を快適に使用できるよう適切に管理・運営する。書画カメラやＤＶＤプレーヤー、ＣＤラジカセ等は、管理簿を用いて紛失を防ぎ、定期的にメンテナンスをする。学校図書館は利用に制限があるが、しおりの配付などの工夫を続けて、さらに利用者を増やすようにする。
本校の特色	B1 生徒は、家庭学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。」⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 各学年最初のガイダンスにおいて、具体的な家庭学習の仕方を指導する。また、学年だよりで保護者にも見守りを依頼し、家庭の協力を得る。 ② 学習委員会が中心となり、自主学習ノート提出の呼びかけやチェックを行う。また年４回、自主学習ノートを毎日提出できた生徒の表彰や、優秀なノートの展示を行う。 ③ 自主学習ノートの確認を朝の時間を利用して学年体制で行う。未提出の生徒や取組が不十分な生徒には、学級担任が学習の仕方等を個別指導する。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 90.4%（昨年度より 1.3 ポイント↓）で数値指標 0.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。自主学習ノートを活用して自主学習に取り組めるように、効果的な家庭学習の仕方を年度当初のガイダンスで行う。また、学習委員のはたらきかけや学級担任の行う学習指導等で、家庭学習を習慣化させる。さらに、学年便りや保護者会等でこれらの取組を広報していくことで、保護者の協力を得る。
課題等	B2 生徒は、草花栽培活動やクリーン活動に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、クリーン活動や草花栽培に取り組んでいる。」⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 緑化委員会による花壇の整備や水やり、中庭の緑化環境を充実させる。また、緑化委員の取組として校内掲示板で周知する。 ② 学年ごとの校内クリーン活動を年２回、11月に美化委員会によるとびやま城址跡清掃ボランティアを行い、環境美化の意欲を高め、生徒がより主体的に活動が行えるように働きかける。 ③ 特色ある学校づくりの一端として、1学年の総合的な学習の時間における草花栽培活動や食農体験活動を充実させ、生徒の自主的・主体的活動を促すようにする。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 93.3%（昨年度より 4.7 ポイント↑）で数値指標を 3.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。校内クリーン活動や花いっぱいプロジェクトなど、緑化委員会や美化委員会の活動を中心に、全校生徒で活動する取組を継続する。また、地域協議会やＰＴＡと連携した活動を、次年度も継続していく。

本校の特色・課題等	○B3 生徒は、交通ルールやマナーを守って安全に登下校をしている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、交通ルールやマナーを守って安全に登下校をしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 100%	① <u>年度初め、新入生に向けた交通安全指導の徹底と交通安全教室を年2回実施し、交通安全への意識を高める。また、定期的に登校指導や日頃の交通マナーを確認するとともに、生徒の通学状況及びＬＲＴ工事などによる危険個所の把握に努める。</u> ② 部活動終了後の日々の下校指導や、ＰＴＡの年間を通した下校指導、年2回の自転車点検を行うことで、安全に登下校ができるよう指導する。 ③ <u>交通安全委員が帰りの会で反射ベスト点検やヘルメットのあごひも点検を行い、安全に登下校できるよう呼びかけをさせる。</u> ④ 交通事故が発生した際は、教職員が現場に出向いて現状確認と適切な対応処置を行い、再発防止に向けて全生徒に指導を行う。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 91.0%で数値指標を 9.0 ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度の拡充項目とする。引き続き、年2回の交通安全教室を実施し、交通安全への意識を高めるとともに、月1回の登校指導や日頃の交通マナーを確認し、生徒の通学状況及び危険個所等の把握に努める。特に、年度当初に新入生に向けた交通安全指導を強化する。 交通安全委員の取組を継続し、生徒が安全に登下校できるように呼びかけを行うとともに、下校時の反射ベスト着用の徹底を図る。また、生徒が中心となって交通安全の意識が高まるように、委員会や生徒会主催の「交通安全週間」を設ける。そこで、自分たちの交通マナーや危険個所を改めて振り返るようにする。
------------------	--	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・教職員、保護者、地域住民及び生徒の全アンケート85項目において81項目が昨年度からの継続である。その内、62項目(76.5%)が昨年度よりも肯定的回答の割合が上回った。(100%→100%も含む)
また、28項目の目標数値指標のうち22項目(78.6%)が指標を達成し、市中学平均を上回った項目は75項目中48項目(64%)であった。改善が見られた項目と課題がある項目は以下の通りである。
引き続き、課題解決に向けた取組を継続していきたい。

(1) 昨年度との比較から

① 特に改善が見られた項目

- ・「A2 生徒は、思いやりの心をもっている」(拡充項目)
〔教職員 95.9% (5.7P↑) 保護者 89.9% (2.9P↑) 地域住民 94.1% (4.6P↑) 生徒 95.8% (5.3P↑)〕
- ・「A4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」(拡充項目)
〔教職員 89.8% (5.5P↑) 保護者 89.9% (0.6P↑) 地域住民 95.0% (17.7P↑) 生徒 97.4% (4.8P↑)〕
- ・「A10 生徒は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している」(拡充項目)
〔教職員 98.0% (11.7P↑) 保護者 65.5% (16.3P↑) 生徒 84.5% (17.4P↑)〕
- ・「A18 先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」(拡充項目)
〔教職員 100% (3.9P↑) 保護者 76.9% (1.9P↑) 生徒 92.8% (1.5P↑)〕

② 特に課題となる項目

- ・「A3 生徒は、きまりやマナーを守って生活している。」
〔教職員 89.8% (5.5P↑) 保護者 92.4% (2.2P↑) 地域住民 84.2% (10.8P↓) 生徒 93.8% (5.1P↑)〕
- ・「A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」
〔教職員 65.3% (21.0P↓)〕
- ・「B1 生徒は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。」
〔教職員 91.8% (6.2P↓) 保護者 78.0% (1.0P↑) 生徒 90.4% (1.3P↓)〕

(2) 市中学校の平均との比較から

① 特に良さが見られた項目

・「A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。」

〔教職員 87.8% (市より 11.9P↑) 保護者 66.2% (市より 4.2P↓, 昨年より 16P↑) 生徒 83.9% (市より 2.6P↓)〕

・「A 12 生徒は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」

〔教職員 81.6% (市より 9.8P↑) 生徒 84.1% (市より 5.8P↑)〕

・「A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」

〔教職員 95.9.% (市より 5.3P↑)〕

② 課題となる項目

・「A 3 生徒は、きまりやマナーを守って生活している。」

〔教職員 89.8% (市より 2.4P↓) 保護者 92.4% (市より 0.1P↑) 地域住民 84.2% (市より 13.4P↓) 生徒 93.8% (市より 2.2P↑)〕

(3) 目指す生徒の姿の状況から

・「生徒は、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる。」の生徒の肯定回答率が昨年度より向上しており、市の平均を上回っている。今後も「本時の目標」を明確にし、見通しを持たせる授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。また、自主学习ノートを活用した家庭学習の指導を継続する。(学習と情報)

・生徒は思いやりの心を持っているのだが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学校活動に制限があり、思いやりの心を十分に実践する機会が減少した。道徳の時間で思いやりの心を育む授業を展開し、思いやりの心をもって生活をするよう指導を継続し、思いやりを育む活動を工夫していく。高齢者に対してもいたわりの心をもてるように指導していく。(心と生活)

・生徒は決まりやマナーを守って生活していると考えている。また、学校全体としても決まりやマナーを守った落ち着いた雰囲気になってきているので、次年度もそれを継続できるように指導に当たる。(心と生活)

・食育だよりや保健だよりの発行、避難訓練の実施により生徒の健康・安全についての意識を高めることができていますが、今後はより生徒が主体的に意識を高められるように、委員会での呼びかけなども行っていく。(健康と安全)

・「生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」の生徒の肯定的回答率が昨年度より上昇し、市の平均も上回っている。目標指数にはわずかに届かなかったため、今後も掲示物を作成したり、各教科の授業で扱ったりするなど生徒への啓発を継続する。(健康と安全)

(4) 目指す学校の姿の状況から

・英語の授業で積極的に英語を使って級友や教員、ALTとコミュニケーションをとっている生徒の様子が見られた。また、全ての教科で、課題を解決するための効果的なICTを選び、情報を収集し、表やグラフを組み合わせて資料を作成するなど、タブレットを中心としたICT活用をしていく。(学習と情報)

・教育相談やいじめアンケートの実施などで教職員がいじめ解消に向けて熱心に指導している姿から、生徒はいじめが許されない行為であることを教職員が指導しているととらえている。今後も指導を継続し、いじめの根絶に向けて指導していく。(心と生活)

・不登校を生まないために、教育相談・特別支援教育部会や、必要に応じてケース会議を行い、配慮生徒の早期発見と早期対応をしている。次年度は、個別の対応方法について更に工夫をしていく。(心と生活)

・今後も、危険個所の早期発見や早期対応を図るために、日頃からの安全点検を徹底していく。(健康と安全)

・「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」の肯定的回答が市の平均を上回っている。教育相談部会での共通理解や、SCMによる担任とSCやMSのコーディネートが密に行われた事により、担任が一人で抱え込む事案がなくなっている。(学校運営)

・「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」では、今年度最も大きく下降した項目であるため、業務内容を見直すとともに効率化を図りたい。(学校運営)

(5) 本校の特色・課題等の状況から

・自主学习ノート提出の呼びかけや、優秀な自主学习ノートの展示による学習の仕方の共有を図ったことにより、自主的に家庭学習に取り組む生徒が92%を超えている。(学習と情報)

・交通安全教室を実施し、反射材をつけるなどの取組を通して生徒の交通安全への意識は高まりつつある。今後はより一層の交通マナーの向上が望まれるため、生徒が主体となって自分たちのマナーを振り返れるような取組を行っていく。そうすることで、登下校中の交通事故ゼロを目指していきたい。(健康と安全)

7 学校関係者評価

今年度も感染症対策のため、書面での回答とし、要約したものを以下にまとめた。
どの回答からも、学校を応援してくださる温かい言葉が感じ取れた。

(1) 本校生徒のマナーについて

- ・地域住民が下回ったということは、昨年度とは違う印象を受けたと思いますので、この事実を生徒に投げかけて、生徒に考えさせてみることもよいのではないかと思います。
- ・道徳科の授業等できまりやマナーについて取り上げていただき、社会人セミナーや外部講師、資料など活用してみるのも目先が変わるような気がします。
- ・生徒はきまりやマナーを守って生活していると思います。逆の意見として、地域住民の中学生に対して臨む姿を明確にしなければ改善は難しいと思います。また、地域住民は、知らない中学生に対して自らあいさつしているのか？という疑問も発生します。少し気になのは、夜9時過ぎ、ヘルメットを被らず、大きな声で話しながら中学校から出てくる生徒を見かけます。
- ・信号待ちの様子やヘルメットを被らない生徒、スマホを操作しながら自転車に乗っている生徒を見かけたとの声も耳にします。どれも一部の限られた生徒だと思いますが、外での行動は常にだれかに見られていることを自覚できるような指導を引き続きお願いします。
- ・自動車運転手への不安の感じ方を今一度指導していただきたい。
- ・交通事情が著しく変わってくるので、厳しく評価したのでしょうか。命が一番です。
- ・登下校の自転車の乗り方について、横に並んで危ないと思うことがありました。
- ・下校時、正門まで自転車を押して歩いている姿が見られますが、学校を離れた場所での自転車の乗り方に問題があるのかもしれませんが。
- ・中学生は、礼儀正しくあいさつができ、自転車の乗り方や保管の仕方もきちんとできているので、小学生の良いお手本となっています。
- ・自分からあいさつする生徒、声をかければあいさつする生徒、それぞれ中学生らしいと思っている。

(2) 学校評価項目のその他の内容について。

- ・小中一貫教育や地域学校園の取組について、あまり詳しくは認識していなかったのですが、いろいろな取組をしているんですね。
- ・地域住民には回答が難しい項目が多すぎます。学校外の期待に反して学校だよりは見ていないです。
- ・最近の清原中は、いつ訪れても落ち着いた教育活動が展開されていると思います。
- ・地域の方たちがもっと学校のことを知って、気楽に来校できるような取り組みがあるとより学校が身近に感じられて良いのかなと思います。
- ・小中の連携に向けた取組の充実をお願いいたします。
- ・いじめや不登校に関して、きめ細かな指導がされていることが保護者の理解につながっているものとうかがえます。一人一台の端末の活用が進んでいると思いますが、図書の活用はどうでしょうか。
- ・A20が大きく下回っているのので、改善できるとよいと思います。
- ・何よりも子どもたちが元気に楽しく学校生活を送れることが一番大切なので、評価に振り回されず生徒のための取組を今後も続けてほしいと願います。
- ・HPの更新をこまめにしてほしい。

(3) その他

- ・昨年度に引き続き、コロナ禍の中、生徒と接する機会が減ってしまい残念です。
- ・清原中学校は緑に囲まれたすばらしい環境があり、かつて全国コンクールで優秀な成績を収めた実績を過去のものとするのではなく、新たなチャレンジとして取り組んでいただきたい。
- ・我々大人がやっていないことは、子供にもできない。清央小方面の子供たちは特にしっかりといると思う、中学校にはこのまま頑張っていただきたい。
- ・地域住民は子供のためと思っていることですが、なかなか注意できない状況下にあります。生徒たちは頑張っていると思います。もちろん先生方もです。
- ・地域の環境整備（道路の白線や犬の糞等）について、学校からも市に強くお願いしてほしい。
- ・先生方のご尽力は常々感謝しております。体にお気をつけ健やかな毎日をお過ごしください。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

活力ある生徒の育成を目指した活力ある学校づくりの推進

今年度は、完全実施となった新学習指導要領により育成を目指す資質・能力が明確化され、教科等の評価の観点が変わり、それに対応するため、何をすべきか、何ができるか、どうしたらできるかを本校生徒の実態を踏まえ、教職員全員で創意工夫をして、一つ一つを丁寧に取り組んできた。また、GIGAスクール構想によりICT活用の場面が一気に増え、運動のライブ配信や学校休業中のオンライン学習を行うなど、従来の教育活動が様変わりした。

全体アンケートでは、前年度との比較で肯定的回答率が上回っている項目が多数見られ、特に保護者や地域住民の数値が上昇し有難く感じるとともに、学校への期待が高いことの表れともとれる。この結果は、学校だよりやHP等で保護者や地域住民に学校の様子をお知らせできたこと、中間評価の結果を踏まえた教職員の指導や学校運営の多くの場面で1人1台端末の活用をしたことが功を奏したと考えられるが、教職員の業務過多とならないようにすることも課題である。

次年度は、活力ある生徒の育成が、活力ある学校づくりにつながることや地域の発展に貢献することから、「活力ある生徒の育成を目指した活力ある学校づくりの推進」を掲げることとした。今年度の課題を踏まえ、以下の項目に重点を置くことで生徒・教職員・家庭・地域の良さを十分に発揮しながら、地域とともにある学校づくりを継続して進めていく。

○（１）確かな学力を育む教育の推進

「A5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

「A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。」

「A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」を拡充項目とする。

ここでは、主体的・対話的で深い学びを通して、認め励ます指導の充実と学びに向かう望ましい集団作りをねらいとする。また、「宇都宮学」や「キャリア・パスポート」の活用を推進して、自分たちが社会のためにできることは何かを考え、社会に貢献することの大切さを理解させる。授業でも「今日の目標」を確実に理解させ、「振り返り」から生徒の学びに向かう態度を適切に見取ることで、課題解決にあきらめず粘り強く取り組むことができる力を身に付けた生徒の育成を図り、確かな学力を育む教育を推進する。今年度1人1台端末がスムーズに導入されたが、次年度も生徒が主体的にICTや学校図書館を活用する授業の工夫を進める。

○（２）豊かな心を育む教育の推進

「A3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」

「A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」を拡充項目とする。

ここでは、他者を思いやる心を醸成し、生徒の自尊感情や規範意識を高めることをねらいとする。

地域学校園の重点目標である道徳科における「公德心」を豊かな心を育む教育を推進する。

また、コロナ禍において、行事を単に中止とするのではなく、生徒たちが生き生きと活躍できるような方法を工夫し、意図的・計画的に生徒の頑張りや取組の良さを認め、励まし、称賛する場面を位置付けていく。

（３）健やかな体を育む教育の推進

「B3 生徒は、交通ルールやマナーを守って安全に登下校をしている。」を拡充項目とする。

ここでは、健康で安全な生活を送るため、生徒が自らの命を守る行動力を身に付けることをねらいとする。今後の生徒数の増加により、自転車の乗り方や交通、マナーの順守が必須であり、交通安全教室のみならず、教科や学校行事での危機予測・回避能力の育成を通して、健やかな体を育む教育を推進する。

（４）教職員の働き方改革の推進

「A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」を拡充項目とする。

今年度大きく下降したことから、働き方を見直すタイムマネジメントの推奨と教科指導や学年経営における業務の効率化を図る。また、「チーム学校」として業務改善の目指す方向性を示していく。